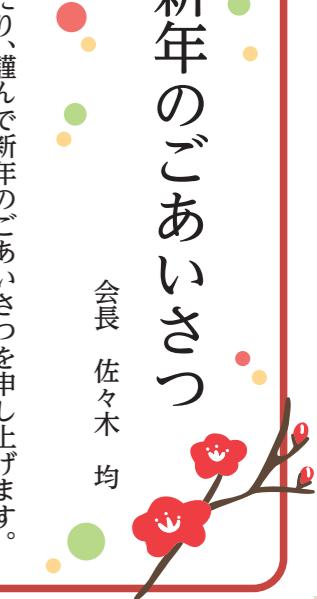




## 新年のごあいさつ

会長 佐々木 均



令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より本会の活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年、本会は三団体（宮城県社会福祉協議会・宮城県福祉事業団・宮城いきいき財団）の統合から20周年という節目の年を迎えた。これまでの歩みを支えてくださった県民の皆様、関係機関の皆様に、心より感謝申し上げます。

統合以来、「誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり」に取り組んでもまいりました。次の10年、20年を見据えて社会の変化に柔軟に対応しながら、引き続き役職員一丸となつて取り組んでまいります。

さまざまな困難を抱える方々が、住み慣れた地域で安心して暮らしえるためには、福祉分野のみの対応ではなく、地域住民が支え合い、多様な分野が連携・協働する地域共生社会の実現が求められておりまます。本会では、宮城県や福祉関係団体等と共に構成する「宮城県地域共生社会推進会議」を中心に、経済・教育などさまざまな分野の関係者と連携しながら、その実現に向けた取組を進めてまいります。

また、地域福祉推進の中核機関として、地域福祉に関する各種事業を実施するとともに、高齢者や障害者（児）の入所施設等も運営しております。今年も、本会の経営理念に掲げる「豊かな福祉社会の実現」に向けて尽力してまいります。

新しい年が皆様にとりまして、幸せあふれる良い年になりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



### 高次脳機能障害と向き合いながら働く日々

ながらチャレンジクルーとしてザ・モール長町店で働く佐々木さんと、店長の市川さんにお話を伺いました。

佐々木さんは、週5日、午前9時から午後4時まで勤務しています。清掃する場所を曜日ごとに決めて、開店前の1時間で丁寧に清掃を行います。開店後は、サラダを作る準備やポテトなどの搬入作業を担当しています。

清掃の作業では、お客様が快適に店舗を利用できるよう、目に見えない部分まで丁寧に行っています。市川さんは「佐々木さんの細やかな仕事ぶりや、清掃の基準の高さに助かっています」と語ります。

ながらチャレンジクルーとしての日々は、佐々木さんと、店長の市川さんにお話を伺いました。

佐々木さんは、週5日、午前9時から午後4時まで勤務しています。清掃する場所を曜日ごとに決めて、開店前の1時間で丁寧に清掃を行います。開店後は、サラダを作る準備やポテトなどの搬入作業を担当しています。

搬入作業では他のクルーに指導する役割も担つており、身振りを交えて言葉で伝えています。高次脳機能障害の特性として記

**趣味のラーメン店巡りがリハビリに、そして仕事の力に**

▲一日の作業内容の記録

佐々木さんの趣味はラーメン店巡り。発症前からのラーメン

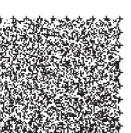


▲特定非営利活動法人ほっぷの森に掲示しているラーメン日記の写真



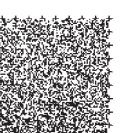
得意なことを生かしながら、つまずきを成長の機会に

「チャレンジクルーが得意なことを生かして店舗で活躍できるよう、本人とのコミュニケーションや周囲への共有を意識的に行っています」と語る市川さん。日々の業務の中で、つまずきへの対応にも工夫を重ねています。



趣味が力に、仕事が生きがいに  
**「仙台にしむら」が支える「働く」かたち**

高次脳機能障害がありながらも、自分らしく働く佐々木さんの物語



「誰もが役割を持ち支え合う地域共生社会の実現」に向けて、企業の果たす役割がますます注目されています。株式会社仙台にしむら（以下、「仙台にしむら」）

にしむらは、日本マクドナルド株式会社とフランチャイズ契約を結び、宮城県内で17店舗を経営しています。マクドナルドの店舗で働くアルバイトは「フレー」と呼ばれ、学生、主婦（夫）、シニア、外国人、障害者など、多様な背景を持つ人々が協力し合いながら働いています。

仙台にしむらは、日本マクドナルドの店舗で働くアルバイトは「フレー」と呼ばれ、学生、主婦

（夫）、シニア、外国人、障害者など、多様な背景を持つ人々が協力し合いながら働いています。

障害のあるフレーは「チャレンジクルー」と呼ばれます。主に

調理や清掃、資材の搬入・整理

などの業務に従事し、希望に応じて接客や販売にも携わること

ができます。

今回は、高次脳機能障害による言語や記憶などの障害と向きあい

ができます。



▲左から、仙台にしむらマクドナルドザ・モール仙台長町店 店長 市川亜友美さん、チャレンジクルー 佐々木学さん 支援員 及川真由子さん（※取材は286西多賀店）



「うまくいかないときは、できようになるまでタイミングや方法を慎重に考えます。すべてをサポートしてしまうと、本人の成功体験にならず、成長にもつながりません。だからこそ、手を離すタイミングや見守る姿勢がとても重要です」と市川さんは話します。



▲就労に関する支援を行う及川さんも交えて、定期的に面談も行います。

市川さんは「多様な人材が働くことで、互いを思いやる気持ちが生まれました」と話します。忙しい時でも「一人一人が最大限のパフォーマンスを發揮している」と理解し合える環境が、店舗の雰囲気を優しく、協力的なものに変えています。「自分も理解してもらえるから、相手のことも理解しよう」という気持ちが、働きやすい職場づくりにつながっています。

### 多様な人材が働くことで 育まれる思いやり

市川さん。一人一人の特性を尊重しながら、成長の機会に変えていく工夫が、働く人の自信となり、職場全体の成長へつながっています。

### 働くことが人生を前向きに 変える力になる

佐々木さんは「右腕が肩の高さまでしか上がらなかつた」と、就職当初を振り返ります。現在では、肩より高く腕を上げられるようになりました。可動域が広がったことで左肩まで届くようになりました。右手でトンボを持ち、左手で袋を広げながらパイやサラダを入れる作業も、今ではスムーズにこなせるようになりました。

「仕事は“いきがい”です」と語る佐々木さん。前述のラーメン店巡りなどの趣味が充実しているからこそ、仕事にも前向きに取り組むことができるといいます。働くことは、張り合いのあります。働くことは、張り合いのある生活を送るための原動力。趣味と仕事の両立を通して、佐々木さんは自分らしい人生を歩んでいます。

## プロフィール 佐々木 学さん

### 発症からこれまでの歩み

2019年10月、自宅で娘二人と遊んでいた際に脳梗塞を発症。右片麻痺、全失語、意識障害と診断されました。「発症後3か月間は気持ちが暗く、何を話されてもわからなかった。右手は箸も持てなかった」と当時を振り返ります。

4か月目に出会ったTMS治療(脳に繰り返し磁気を利用して電気刺激を与える治療)をきっかけに、「娘の名前を呼べるようになりたい」と懸命にリハビリを継続。現在は軽い右片麻痺がありますが、身振りを交えた日常会話が可能となり、スマートフォンのメモ機能やメールを活用しながら生活を送っています。

2023年9月から仙台にしむら（マクドナルド ザ・モール長町店）に勤務。趣味はラーメン店巡り。SNSで「ラーメン日記」を更新中で、目標は400店舗の紹介。将来の夢は、ラーメン本を出版すること。

